

SCI Agritech NEWSLETTER (2023.1)

JICA筑波 専門家ブラッシュアップ研修

「アフリカの農業分野におけるカイゼン手法の活用」

Vol.11

2023年1月11日、JICA筑波にてJICA筑波/日本生産性本部/当社の共同企画による専門家ブラッシュアップ研修「アフリカの農業分野におけるカイゼン手法の活用」を実施しました。今回は対面/オンラインのハイブリッド形式で実施し、参加者は対面で約20名、オンラインで約50名と盛況でした。本研修の講師には、過年度のTICAD8調査業務でアフリカの農業分野におけるカイゼン手法導入の可能性を検討した日本生産性本部の稲葉氏と当社の荒川氏に加え、トヨタ自動車(株)より農業経営へのカイゼンコンサルティング事業を行っている担当者をお招き、農業分野における課題の認識、トヨタ式カイゼン手法の農業分野での実践、また今後のアフリカの農業分野における活用について講義、演習およびディスカッションを行いました。

背景

主に国内の製造業の分野で実践されてきた「カイゼン」手法は、近年は分野・地域をまたがる適用を見せており、アフリカにおけるJICAの事業でも導入されています。また昨年度、アフリカ農業分野の戦略検討に係る調査において本分野に関する調査が実施され、カイゼンの農業分野への導入の提言がなされました。

「カイゼン」を製造現場で取り組むトヨタ自動車(株)は、国内で農業経営に対しても「カイゼン」のコンサルティング業務を展開しています。今後のアフリカ等の農業分野へのカイゼンの活用に向けて知見を得るべく本ブラッシュアップ研修を企画しました。

研修の目的

- 日本国内の農業分野において、カイゼン手法を活用した生産性向上支援サービスを提供するトヨタ自動車の取り組みを知り、農業分野での同手法の有効性、難しさ、普及展開方法を学ぶ。
- 開発途上国の農業分野におけるカイゼン手法の活用について考える。

プログラム

- 導入－農業経営の視点で見たアフリカと日本の農業の共通課題－
講師：荒川英孝、稲葉健一
- カイゼン手法－トヨタ生産方式－、農業分野におけるカイゼン手法活用
講師：山形政勝
- カイゼンの着眼点(研修会場・倉庫での実演)
講師：山形政勝
- アフリカの農業におけるカイゼン手法の活用検討(ディスカッション)
講師：山形政勝、難波猛、荒川英孝、稲葉健一
- まとめ
講師：稲葉健一

講師

山形 政勝 氏

難波 猛 氏

トヨタ自動車株式会社
アグリパイオ事業部

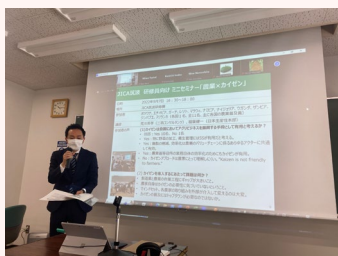
稲葉 健一 氏

公益財団法人
日本生産性本部

荒川 英孝 氏

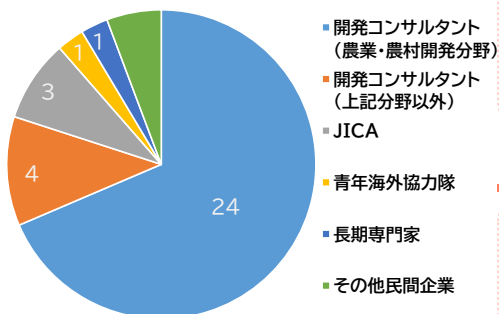
株式会社
三祐コンサルタンツ

研修の様子



参加者アンケートより

(1) 参加者の属性



(2) 講義で印象に残った点

- ◆ 「「カイゼン」に関わらず、普段の業務の中や社内で「ムダどり」の考え方は活かそうだと感じた。」
- ◆ 「モチベーションを上げたり、習慣化させるために「定量化」するという考え方も途上国における営農技術指導などの際に生かせると思った。」
- ◆ 「現場の写真とともに、具体的にどのような活動をされたのかがわかりやすく、現地の状況に合わせたカイゼン手法について理解できた。」
- ◆ 「講師の方や他の研修参加者の着眼点を知ることで勉強になった。」
- ◆ 「農機の設置場所をテープで決めておくといった具体的なカイゼンの手法」
- ◆ 「人材育成とカイゼンの関係性」、「人づくりの考え方」
- ◆ 「今後、アフリカでの農業法人が増加するにつれ、カイゼンの活用余地は増えてくる可能性があること。」
- ◆ 「カイゼンとGAPの類似点。周りの人を巻き込み実践していくマインドセットの重要性。」

(3) 今後の業務への活用について

- ◆ 「ケニアの農家向けにカイゼンの理論を含めた研修を実施し、乾燥場の清掃・管理や在庫管理に役立ててもらいたい。」
- ◆ 「現在実施中のJICA案件(技術協力プロジェクト)、または今後のプロポーザル時の提案内容において活かす予定。」
- ◆ 「コメ技プロにおける精米所や販売店、農機サービスプロバイダーの強化のためのツールとして活用していきたい。」
- ◆ 「まずは身の回りや業務で使用する書類の整理などから行ってみたいと思います。」
- ◆ 「農業DXにかかわることがあれば活かしていきたい。」
- ◆ 「5Sはどのような業務でも活かせると思います。」